

印象・四万十川

坂本礼子

村研大会への参加は、今回で二回目である。前回同様に知人の運転する車に同乗させてもらつて、京都から一路四万十川をめざした。朝早く出発したにもかかわらず到着したのは日もとっぷりと暮れた頃で、折角のリバーサイド・ドライブも車の外は真っ暗闇。景色を楽しむことはできなかつた。そういうわけで、彼の有名な清流四万十との対面は翌朝まで持ち越されたのである。

ところが残念なことに、大会会場に向かうバスの中から見える四万十川は、話に聞くような美しさを見せてくれなかつた。運転手の方の説明では、川が濁っているのはこここのところ頻繁に訪れる台風のせいであり、おかげで懇親会で予定されていた火振り漁はおそらく中止になるだろうということである。「鮎を食べることはできるのだろうか……」食い意地の張つた私は、説明を聞きながらぼんやりとそんなことを考えていた。

さて、「二回目だから報告もよくわかつたでしょ」と先輩方からよく言われるのであるが、(自慢ではないが)そんなことはない。しかし村落研究の先生や先輩の方々の報告を直接聞くことは、未熟者の私には何よりの勉強になるし、啓発されるところも多い。大会一日目、最初の報告者は長谷部会員である。この報告の中で、近世後期に養蚕業を中心として商品経済の発展した地帯の村落構造を論じられた。

一番手の報告者である杉原会員は、沖縄における土地相続と利用調整について報告をされた。

北原会員の報告も、同じく沖縄についてのものであつた。ここで取り上げられたのは家(ヤー)の相続と継承である。

秋津元会員は、村落におけるツキアイをネットワークという視点から論ずる報告を行われた。

立川会員の報告は、混住化社会を地域問題処理の観点から捉えており、新たなコミュニケーション形成の方向を提示している。

以上で自由報告は終了し、翌日課題報告が行われた。本年の課題は、昨年に引き続いて『農村社会編成の論理と展開』とされている。まず、長谷川会員が「農村社会の方向性と活性化」という報告をされた。戦後の農村社会の展開を三区分され、それらの段階を経て現在の農村社会が直面する停滞化の原因、こうした問題を解決する方向性、地域活性化の方策とその問題点を論じられた。

次に嘉田会員は、村落の伝統が環境問題を問題化させないためのシャドウファンクションの役割を果たす点に注目して、環境問題の視点から村落社会研究の蓄積を「読み直す」ことを提案された。

都合により課題報告はここまでしか聞くことができなかつた。この後の相川会員の報告や午後からの共同討議を聞くことができず、大変残念に思つてゐる。

二日間で聞いた報告のうち、最も印象に残つたのは一日目の杉原会員の報告であった。この報告では、地域の慣習というものを単純に後進性の表れと捉えることに対する異論が述べられた。ここでの慣習とは、その存在と変容が「発展の可能性を伸ばし」「單なる風土条件を越えて独自性を發揮する」側面をもち、またより普遍的な基

準（ここでは本土農業）を「相対化し批判していく」可能性を持つものとして捉えられている。

一九七〇年代以降の開発研究では、それまでの西欧＝先進工業国からの知識の伝播によって発展が行われるとする単系的発展観に对抗して、発展途上国においても独自の文化伝統に基づいた発展が可能であるとする多系的発展観が生まれてきた。杉原会員の報告も、このような発展観の流れを汲むものであろう。東南アジア社会に対する関心を持つ私にとって、発展途上地域における開発と発展という大きな問題を背後に抱えているこの報告は、大変興味深いものであった。また諸先生方を前に報告する杉原会員の姿を見ると、同じ大学院生でいながらという思いを抱かざるを得ない。そういう意味でも、この報告はとりわけ印象深いものとなつたのである。

さて、合計七つの報告を消化することはまだまだ難しく、勉強不足を痛感させられた。各報告をまとめることもできず、報告者がこの印象記を読むことを考えると大変貧しい内容で申し訳ないばかりである。

懇親会では火振り漁こそ中止になつたが、元村長他地元の方々による神楽は幻想的で、これだけでも十分に味わいのあるものだった。重々しいだけでなくコミカルな動きを持つ神楽は、村研大会の真剣な議論と懇親会での打って変わった賑やかさにも似ている。食いしんぼうの私にはなお嬉しいことに、舞台の横手ではたくさんの鮎が、幾つもの火を丸く囲んで焼かれているのが見えた。これも地元の方々が、つい前からこの日のために用意してくれたものだとう。実際に大勢の裏方によつて、大会は支えられているわけである。最後に、大会の成功のためにお骨折りくださった高知大学の大野先

生をはじめ、地元和村の皆様そして報告者の方々に心からのお礼を申し上げて、この印象記をしめくくることにしたい。

第38回村落社会研究会 十 和 村 大 会

